

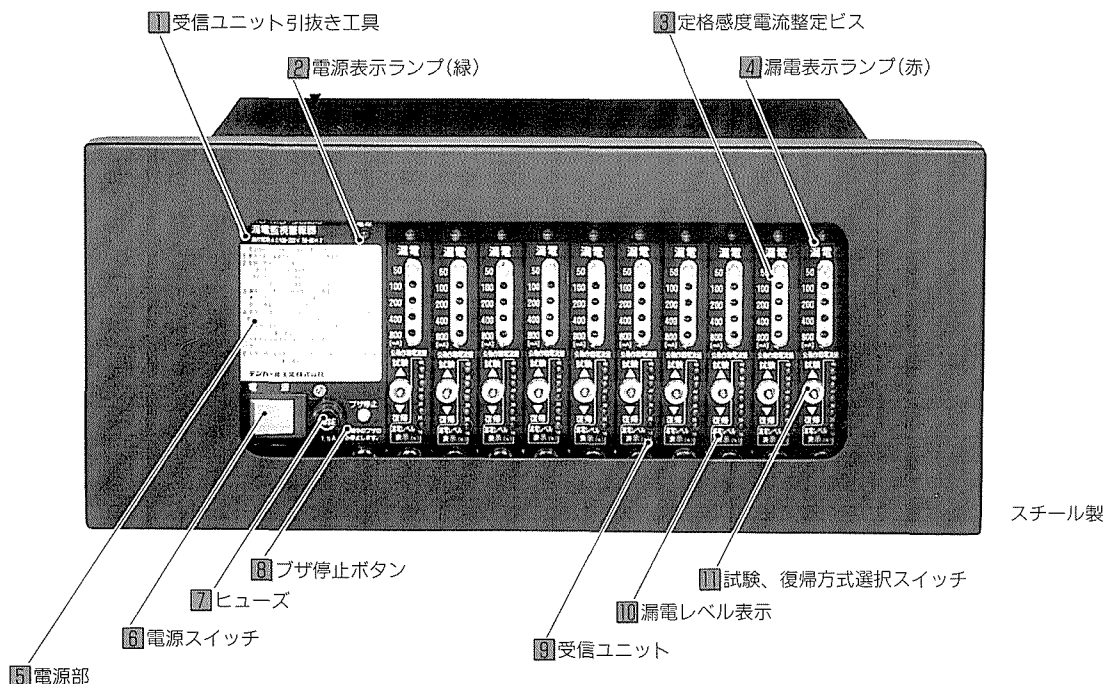
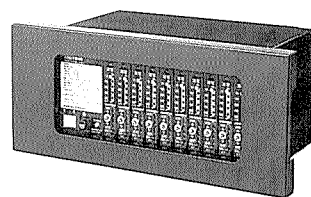
多回路形漏電監視警報器

AS-MD

10回路までの電路の漏電を同時に監視できます。

漏電レベル表示付ですと最小5mAの

漏れ電流から監視できます。



端子配列

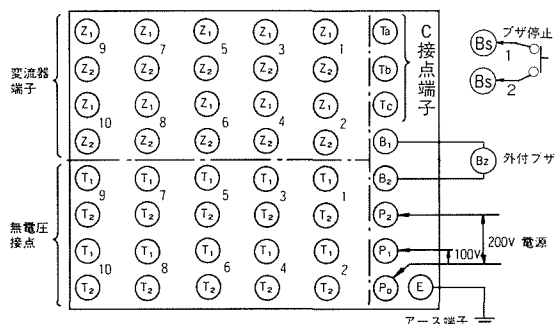
注意 ■ 電源は200Vの時①-②、100Vの時③-④に接続してください。

■ ⑤-⑩(1-10)は変流器端子ですので電圧をかけないでください。

■ ⑪-⑮(1-10)は各回路ごとの8接点端子です。

■ ⑮-⑰は共通のC接点端子でプザ端子と連動します。

■ ⑱-⑲はプザ停止接点入力端子ですので電圧をかけないでください。



零相変流器と警報器の配線、接続

■ 大電流の電力線との並行配線、同一ダクト内の配線、又は電磁誘導を受け易い配線は誤警報の原因になります。配線には十分ご注意ください。

■ 配線が短い場合2芯がペアになった電線(VVF等)で配線してください。配線が長い場合や電磁誘導を受けるおそれのある場合は、2芯シールド線を使用してください。シールドは警報器側で接地し、変流器側では接地しないでください。

各部の説明

①受信ユニット引抜き工具：受信ユニット（プラグイン式）をこの工具で引出してください。

②電源表示ランプ(緑)：警報器の電源が入っていることを示します。点灯しない場合はヒューズ、電源スイッチ等を確認してください。

③定格感度電流整定ビス：設定する電流値のねじ穴に確実に整定ビスをねじ込んでください。整定ビスがゆるんだ状態では50mA感度となります。注) 設定する場合、必ず電源スイッチを⑧にしてください。

④漏電表示ランプ(赤)：漏電が発生するとランプが点灯します。

⑤電源部

⑥電源スイッチ：警報器の制御電源を⑧⑨でできます。ヒューズ取替時、定格感度電流値の変更時に⑧にして作業してください。

⑦ヒューズ：ガラス管ヒューズMF51(φ5)、1.5A

⑧プザ停止ボタン：警報中に押すとプザのみ停止します。各ユニットの警報が復帰すれば、プザ停止も自動復帰いたしますので、次に漏電が生じたときもプザは鳴ります。

⑨受信ユニット：プラグイン方式ですのでメンテナンスが容易です。分割形変流器には分割形専用ユニットをお使いください。

⑩漏電レベル表示：現在の漏電状態を定格感度電流値に対する割合で順次点灯します。漏電レベル表示なしも受注仕様として可能です。

⑪試験、復帰方式選択スイッチ

■ 試験(上方向)：本体の動作確認及び変流器の導通試験ができます。

■ 手動復帰(中立)：その回路に漏電が生じたとき、警報が自己保持します。

■ 自動復帰(下方向)：漏電が発生したとき警報し漏電がなくなれば警報が自動復帰します。

(注) 手動復帰方式の復帰スイッチと兼用しています。